

# ルーマニア 「配属先の日本文化祭」

本プログラムにおいて、日本文化を紹介できる人材が育っていることをこのホームページでもご紹介しましたが、1月25日にルーマニアのイオアン・クザ高校で開催された日本文化祭でも生徒たちが日本文化を伝える役割を担い、大活躍しました。

この文化祭では4つのワークショップを軸とし、それぞれのワークショップを担当したい生徒を事前に募集しました。ボランティアは授業の空き時間を利用して、担当者が当日会場を訪れた人たちに各文化を教えることができるよう指導しました。ワークショップは以下のとおりです。

## 切り紙

用意されたモデル型に沿ってカッターで切れ目を入れていくとカードが完成。担当者はカッターの刃の入れ方や、切った紙の折り合わせ方などを参加者に指導しました。使用する千代紙の模様の美しさに女性は特に感動しており、カードを作る際には色の組み合わせを真剣に決めている姿が見られました。実は想像以上に力の要る作業です。



カード作りに挑戦中。

## 書道

参加者が毛筆を体験できるコーナー。担当者は、挑戦者が書きたい言葉があれば、それを日本語で何というか調べながら対応しました。初めての筆の扱いに、最初は肩に力が入っていた参加者も、慣れてくると自分や家族の名前、好きな言葉が日本語でどう表記されるのか、担当の生徒に尋ねながら積極的に取り組んでいました。



熱心に辞書を調べます。

## 折り紙

鶴や星、ハートなどボランティアが日本語の授業で取り入れた折り紙を、担当生徒は当日参加者に教える立場となりました。本当によく折り方を覚えているとボランティアが感心するくらいで、折り紙コーナーに集まった人たちに優しく丁寧に指導していました。



親切丁寧に教えます。

## 浴衣の着付けとコスプレ試着

生徒が浴衣を着せたり、着付け方を紹介したりする一方、コスプレ衣装も用意し、自由に着ることができたコーナーとしました。教員も積極的に浴衣を着用していました。



先生も一緒に コスプレで大満足

切り紙、書道、折り紙はそれぞれ自分の作品を持ち帰ることができるので日本文化を手元に残せることが魅力的でした。また、浴衣やコスプレ衣装を着た人は20分間校内を散策でき、友達に見せたり、写真を撮ったりすることが嬉しいと大人気でした。携帯の待ち受け画面に、フェイスブックのプロフィールページに、この日の写真を設定する生徒も多かったようです。

この文化祭にあたり、ワークショップを担当した生徒たちはみな責任を持ち、積極的に運営に携わっていました。これもボランティアが2年間、生徒たちと信頼関係を築きあげてきた成果です。同僚の先生は生徒への指示やイベント運営を的確かつ効率的に行い、生徒たちは役割分担しながら皆で協力して円滑にイベントを行えるようになっていました。ボランティアは生徒の成長を感じ、彼らの活躍ぶりを高く評価しています。自覚が芽生え、イベント運営技量を培った成果により、プログラムが終了しても教師と生徒が日本文化紹介活動を続けられる手ごたえがあり、ボランティアとしても感無量だった文化祭でした。